

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401442		
法人名	株式会社 道央ケアセンター		
事業所名	グループホームつつじⅢ		
所在地	札幌市手稲区金山1条2丁目1番39号		
自己評価作成日	平成23年2月14日	評価結果市町村受理日	平成23年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

札幌市郊外の住宅が広がるおだやかな場所に位置し、自然環境にもめぐまれてい
ます。主要道路の近くで、公共交通機関も整備されています。
グループホームの1階には認知症デイサービスがあり、行事での交流、共有スペース
もお互いに活用しています。
利用者様が家庭的な雰囲気の中で、楽しく安心した日々が送れるように職員は家族の
一員としてお手伝いをさせて頂いています。
地域の方々と交流ができる催し物を企画し、災害・緊急時の協力体制の充実をはか
り、地域に密着したグループホームをめざし、努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401442&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道の側に位置する3階建ての建物で、1階がデイサービス、2～3階がグループ
ホームとなっており、デイサービス利用者とグループホーム利用者との活発な交流が
あります。協力医療機関がホームの隣にあり、医療体制も充実しています。共用空間
は広く、日当たりも良く、共用空間だけでなく、居室にも丁寧に手すりをつけられ安全
に配慮されています。インテリア、壁紙、装飾なども明るい色調で、モダンな雰
気となっています。また週に1度、利用者と共に避難経路を確認するなど、災害対策
にも熱心に取り組んでいます。記録帳票類もホーム独自に様々な工夫をこらし、それ
によって利用者の状況や希望、思いなどを詳細に把握し、介護計画に活かしていま
す。職員研修にも力を入れており、職員は向上心を持ち、明るく穏やかに利用者
に接しています。職員同士の連携も良く、地域に溶け込み、明るく楽しく生活できるホ
ムを目指し、職員全員で理念を共有しながら日々業務に励んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着を基盤とした理念を掲げ、各所に理念の書いた紙を貼りいつでも見ることができるよう、また、月に1回の社内研修時に読み合わせを行っています。	地域密着を意識して理念を見直し、管理者は職員が仕事で悩んでいる時には、理念に立ち戻るよう助言するなど、全職員で理念を共有し、実践に向けて取り組んでいます。	利用者や家族、地域住民の方々にホームとしてのケアの方針をきちんと理解して頂けるよう、パンフレットや運営規定、重要事項説明書の中に、理念を掲載することを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	美容室は近隣の美容室を利用したり地域の方が音楽や茶道のボランティアで訪問してくださっています。夏祭りでは地域の方や子供達が参加され交流を行っています。	地域の方々が月1～2回、音楽や茶道のボランティアで訪問しています。小学校の行事に誘われたり、敬老の日に利用者が児童から、カードを贈られるなどの交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成22年4月より広報部を設け、ポスター、パンフレットを配布しています。NPOの協力を得て地域との交流活動を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議には各フロアから利用者様、ご家族、民生委員、地域包括センターの方に参加して頂き話し合いを行っています。	会議では参加者から活発に意見が出され、出された意見は運営に活かされています。外部評価や災害対策についても議題として取り上げられています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回行われる手稲協議会や定期的に行われる札幌市の管理者会議等に参加し取り組みを伝え協力関係が築けるように取り組んでいます。	区の保護課、介護保険課を中心に随時情報交換を行い、協力体制を築いています。またグループホーム連絡協議会や管理者会議を通して、同業者との情報交換にも努めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部で行われる研修への参加、伝達講習を行い、社内研修の中にも議題として取り組み学ぶ機会を作っています。その中で話し合い、理解した上でケアに取り組んでいます。	職員は、研修を通して身体拘束について正しく理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいます。利用者の外出の気配を察知した時には、無理に止めず、声かけをしたり、職員が付き添って出かける等の対応をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修の中で虐待について学ぶ時間を作り、利用者様を人生の先輩として敬意の虐待が起こる事ないよう防止に努めています。社外研修に参加した職員は職員への伝達講習を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修を行い、制度について学び感想文を書くことで研修したことを振り返り、実践できるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項、契約書の説明を行い、ご家族からの不安、疑問点を伺い十分な話し合いを行い理解して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際にご意見、ご要望を伺っていますが、玄関にご意見箱を設置しています。	面会簿の下に意見欄を設けています。家族の来訪時には声かけし、家族が職員に気軽に意見や要望を言えるよう雰囲気作りに努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回フロア会議を行い、意見交換を行っています。問題や必要事項がある時はその都度話し合いをしています。	フロア会議の他、随時職員との意見交換の場を設けています。職員からは活発に意見や提案が出され、それらは速やかに運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人と向き合い、悩みを聞いたり、体調に合わせて勤務変更を行っています。勤務表作成時には勤務希望を開き、作成しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回社内研修を行い、研修資料は管理者と職員が担当を決め開催し、感想文を提出しています。社外研修にも参加しています。社外研修に参加した職員は職員への伝達講習を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	手稲協議会、札幌市管理者会議に参加し意見交換を行い、その結果や実習研修を行った際には社内にて伝達講習を行っています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の気持ちに添えるよう親身になってお話を伺い、その方の安心に繋がるような関わりを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方が面会に来られた際やお電話でご相談等して頂けるような関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の方の状況に合った対応が出来るように職員で話し合い、話合ったことを、ご本人・ご家族にお伝えし、ご意見を伺い実践出来るように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に料理や掃除等を行い、暮らしを共にし、ご本人に笑顔で過ごして頂けるような関わりを持てるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子をこまめにご家族に連絡をし、ご家族が職員に話しやすいような関係が築けるよう心掛けています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでのご本人の生活を尊重し、今後も継続して頂けるよう支援しています。又、面会に来られるご友人と楽しく過ごせることが出来るよう雰囲気作りをしています。	行きつけの美容室、墓参り、友人との手紙やプレゼントのやり取り、身内の月命日にお坊さんがホームを訪れる等、馴染みの場所や人との関係が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の考え方を尊重し、孤立することなく利用者様同士が良い関係を築かれるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もご家族の方のご相談をお聞きしたり、ご家族が訪ねてこられたときには、経過をお聞きする等関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望をお伺いしご意向の把握に努めています。今出来る事、その方の為に何が必要かを日々の生活や関わりの中で理解出来るよう努めています。	選択肢を用意して選んで頂くなど聞き方を工夫し、利用者の希望や思いを把握するよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に情報を出来るだけお聞きし環境の変化に戸惑われた際出来るだけ良いケアが職員一同出来るよう情報シートを回覧しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活スタイルやその日の体調、又出来ること出来ないことを職員全員が把握できるよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、ご本人・ご家族の意向をお伺いし職員で意見交換を行っています、意向や職員の意見に基づき、より良い生活が出来るよう介護計画を作成しています。	ケアチェック表、モニタリング評価表など独自の書式を作成し、職員の情報や意見を取り入れて介護計画を作成しています。計画は状況の変化に応じて随時変更しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人お一人の介護記録に毎日記録を行い、気付いた点や気になる事はその都度職員で話し合い情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会の時や電話の中でご家族から希望があればすぐに職員で話し合い取り組んでいます。ご本人の希望も家族や職員で話し合い対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々やケアマネージャーより地域資源についての情報を伺い活用について話し合い支援出来るように努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的受診の他、臨時の際もかかりつけ医に診て頂けるよう日頃から病院と連絡をとり話し合いの機会を設け、関係を築いています。	昔からのかかりつけ医への受診が可能となっています。病院とは密に連携を図り、夜間の急変時も協力医療機関で対応が可能となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人に変化がある時はかかりつけ病院の看護師に相談しています。同病院の方が定期的に薬を届けて下さるので気がついた事をお話すると必要に応じて病院に連絡して下さいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はすぐに情報が提供出来るよう関係書類を整えてあります。入院中はお家族、医療機関と連絡をとり病状の把握に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の事を入所時の契約の時にお話ししています。入所後は面会時等に日常の様子や病状の進行をきちんと伝え、ご家族と話し合いをしています。	入居時に口頭で家族に説明するとともに、状況に応じて家族、医療関係者と相談していますが、まだ書式化された指針や同意書を準備するに至っていません。	重度化や終末期を迎えた場合のホームの対応について、書式化された指針や同意書を準備するとともに、職員間でもターミナルケアについての勉強会を行うなど、今後に向けた体制作りを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作り定期的に研修会を行い緊急時の対応、実践が出来るよう訓練を行っています。社外の研修にも参加し伝達講習を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っています。ご本人も週に1回避難経路の確認を行っています。推進会議で地域の方に協力を依頼しています。	夜間を想定した訓練も行き、反省点は記録としてまとめています。利用者との避難経路の確認の結果は、消防訓練記録表に記録し、誰にどのような対応が必要か把握しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は普段から態度や言葉掛けに気をつけ人生の先輩である事も念頭に置き優しく接するように心掛けています。	接遇に関する研修を行うとともに、不適切な言葉や対応に関しては、職員同士で注意しあっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とお話する機会を作りその方の思いを汲み取り、無理強ひせずご本人の気持ちに添って支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活なので一緒に行動して頂く場合も多いですが、無理強ひせずご本人の気持ちを受けとめながら、共同生活の中における個別ケアが出来るよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のお気に入りの服装ができたり、季節に合った服が着られるように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	音楽を流したり会話を楽しんで食べて頂けるよう雰囲気作りに努めています。食事の用意、片付け、食器拭き等のお手伝いをして頂いています。	利用者の希望を取り入れ、栄養士の管理の下、身体状況に応じた食事を提供しています。職員も利用者と共に楽しく食事をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量を記録し、又ご本人からも好みや希望を伺っています。栄養バランスはメニュー作成時管理栄養士より指導・監修を受けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き援助を行っています。口腔内に問題がある時は歯科衛生士の指導を受け、ご家族に連絡・検討し必要と判断した時は歯科受診を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄状況を把握し、出来るだけトイレで排泄して頂けるようその方に合った支援をしています。日中、夜間の紙パンツ、パッドの使用は排泄状況に応じて使用しています。	チェック表で排泄の状況を把握し、紙パンツを使用している利用者も時間毎にトイレ誘導するなど、排泄の自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取して頂いたり、排泄状況を把握し便秘にならないよう心掛けています。排便のチェック表にて排便日、量を確認をし対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前は健康チェックを行っています。ゆっくりと入浴して頂けるように入浴方法の習慣等も伺い対応しています。希望がある時は午前にも入浴しています。	希望により毎日入浴可能となっています。入浴の順番も柔軟に対応しています。入浴を拒む利用者には清拭をしたり、別の職員が声かけする等の工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や睡眠間隔を把握し安眠できるように夜間の定期巡回を行っています。夜間の様子等夜勤者との申し送りを職員が伝達、周知するようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を職員が確認し服薬の把握をしています。服薬方法はご本人に合わせて援助しています。服薬の間違いないよう社内研修を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に趣味や生活歴を伺い生活の中に取り入れてます。無理強いはせず活動への参加の声掛け、見守りをし出来ない所はお手伝いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には花壇の手入れや家庭菜園等、外に出る機会を作っています。美容室、理容室への外出援助を行っています。バスレクを年に2回予定しています。家族の方が受診同行される事もあります。	近隣の散歩や、ホームの畑に出かけるなど、外出の機会を作るよう努めています。また年2回の花見など、外出レクリエーションも行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所金庫にてお預かりし管理しています。通院や生活必需品の購入の際はご家族に相談し了承を得ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話の取り次ぎをしています。ご家族や友人への手紙は職員が間違えないように住所確認をし投函しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごしていただけるような空間づくりを心がけています。玄関の絵画を季節に合わせ交換したり、季節の行事に合わせた物を飾り、季節感を感じて頂いています。	共用空間は全て広々とし、手すりがあり使いやすくなっています。廊下には、利用者が寛げるようソファが置かれています。インテリアや壁紙、装飾など、ホーム全体が明るい色調であり、かつモダンで落ち着いた雰囲気となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを配置し職員や利用者様同士で会話を楽しまれたり一緒にレクリエーションに参加されたり等思い思いに過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた馴染みの家具を持ってきて頂いています。安心してくつろげるようにご本人の意向をお伺いし配慮しています。	利用者は使い慣れた家具や仏壇、生活用品、思い出の品などを自由に持ち込み、居心地の良い居室となっています。また、居室にも手すりをつけ、安全に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差がなく各所に手すりがあり、廊下にはスポットライトを設置し転倒防止に配慮しています。		